



文部科学省は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢に発現するものとして政令で定めるもの」と発達障害を定義づけている。小中学校を対象とした調査では6.5%に達しているという。今後、世界的にも増加すると予測されている中で、その子どもたちを対象にプログラミングというツールを使い新しい可能性を追求している㈱PLUS INNOVATION 住山健社長に取り組みをお聞きた。

福永 発達障害という言葉は今では、一般的に認知され、発達障害を持つ子どもたちに向けたさまざまな取り組みが行なわれています。この障害は精神的なもののため一見して目に見えないものだけになかなか分かりにくく、成長していく過程で普通の子とも行動や言動などが異なることから発見されるケースが大半です。しかしながら、そこには限りない可能性を秘めた能力や才能が隠されており、その強みをいかにして開花させていくことができるかに取り組む動きが活発化してきました。そこで今回は国内で初めてこの分野に着手し、プログラミングというツールを使いながら対人スキルや生活スキルを身につける教育事業に着手されていらっしゃる㈱PLUS INNOVATION 住山健社長に取り組みを経緯や、取り組み内容などをお聞きかせ願えればと思います。初めにこの事業に着手された経緯をお聞かせください。

住山 大学を終えたあと、発達に障害を抱える大人の方の就労支援の現場に従事してきました。その中において、非常に高い能力は持ちながらも障害の特性や課題面からコミュニケーションを取らずに完結できる仕事や、工場内においてのラインの仕事など、仕事を選ぶ際の選択肢が少なく、生まれもった強みを生かさずに社会に出られる方の支援に関わらせていただいてきました。主に出口のサポートを行っていた訳ですが、今も当時も変わらない

「発達に凸凹を持つ子どもたちの未来を私たちが創造する」をミッションに



㈱フェイス 代表取締役
福永 有利子氏

レストラン・ゲストハウスのウェディングプランナーから各現場の管理職としてマネジメントを担い、確実に業績を伸ばしてきた。2003年にウェディングプランナー養成スクール講師を始め、2006年から2015年まで大学にて非常勤講師として教壇に立つ。2006年堂島ホテル婚礼部長、2008年同ホテル副総支配人。2009年に㈱フェイスを設立。代表取締役役に就任し、現在に至る。現在は、全国のホテルやゲストハウスにて成約率向上を目的としたトレーニングや、集客戦略立案・実践支援などのコンサルティングに加え、会場のビジュアル改善や各種販促ツールの制作など、ウェディング事業の収益改善に向けた業務支援を幅広く行なっている。また、現役ウェディングプランナーの人材育成や専門学校生やウェディング業界への転職希望者などを対象としたスクールも開講。今後は、ウェディング業界を超えて、ホテル・ホスピタリティ業界にて、人材育成マネジメントを広く担っていく。2018年4月から神戸国際大学客員教授。2019年4月から神戸女学院大学 非常勤講師。著書：『ウェディングプランナーじゃない、アカンのは上司や! 悩める管理職のアメムチ19の育成術』

社会問題のひとつである少子化問題にプラスし、近年では発達に障害を持つ子供の出生率も年々増加傾向にあります。今こそ“発達障害”という言葉が少しずつ世間において認知され始めてありますが、少し前までは、病気や先天性な障害のようにいわゆる「見えやすい、障害」ではない為に、職場や友人関係、一般生活の中において当事者たちはなかなか



㈱PLUS INNOVATION 代表取締役社長
住山 健氏

大学を終了後、発達に障害を持つ大人の方に向けた就労支援の現場に従事。その経験をもとに、2015年7月、株式会社PLUS INNOVATIONを設立。同年、国内初となる、発達障害児向けプログラミングスクールKids Tech尼崎を開設。翌年、大田区にて東京支社の設立に加え、Kids Tech蒲田を開設。翌年、9月、関西において2教室目となるKids Tech玉江橋教室を開設。今後は、IT企業からの委託開発受注を目指すとともに、教室運営においてはFC運営において教室数を全国で50教室にまで展開していく。国内初の発達に障害を持つ子どもたちに向けた、プログラミングスクールKids Tech(キッズテック)障害を強みに変え、新たな社会と、その先のミライ創造に向けた教室運営事業を関東と関西の二拠点で運営。

理解されにくい障害のひとつでした。前職に従事していたころから、発達に障害を持つ子供や大人はひとつの事への拘りや本人の興味が強い分野においては、とことん集中し、取り組むことができるチカラがあることからITの分野においては、一般の健常者よりも特性が強いの方が向いているという確信は持っていました。ところが、私自身、エンジニアの経験もなければ、IT業界における知識や経験もない状態でしたので…

そんな時に、10年ぶりにひょんなことで、中高の同級生との再会があり、彼

の職業を尋ねてみると大手のシステムエンジニアとして勤務していたんですよね。

それから、毎日彼に私の構想や思いをぶつけ、説得し続け、晴れて転職を決めてくれたのが弊社のはじまりです。今では、私の福祉の経験や知識と、彼のITにおける経験と知識を融合させ、「障害特性を理解し、プログラミングで課題を解決する。」自社オリジナルの教材開発に加え、各教室におけるカリキュラムの立案等を行っております。

日々目まぐるしいスピードで今後も発展を続けることが予想されるIT産業の発展ですが、実際の現場は、2015年からの労働人口の減少を皮切りに2030年までにおよそ59万人の働き手が不足するという現状です。弊社では、そのような社会問題を解決すべく、今後担い手が多く必要になる産業に適した人材の早期教育と位置づけ、「国内初の発達障害児向け、プログラミングスクール」を開校させていたがきました。生まれ持った、「障害」や「弱み」に着眼するのではなく、「できそうなこと、やりたいこと」とをことん伸ばす、アタラシイIT教室として関東と関西において運営をさせて頂いている現状です。

福永 教室に通われている生徒たちは、日中は通常の学校に通われていらっしやるのですか。

住山 通常の小学校、中学校、高校に通っています。学校の授業が終了後、Kids Techの教室に来て、プログラミングを学ぶという流れです。健常のお子様に通うスクールと同様にお習い事のために教室に来ているという感覚です。健常児向けのプログラミング教室は最近多く拝見しますが、発達障害児向けの民間スクールというのは、色んな意味で「アタラシイ、教室のカタチ」であることは間違いありません。

発達に障害を持つ児童の保護者は、子どもの将来のために何とか可能性を開花してあげたいという思いで、日々、悩まれています。ですが、健常の子供たちが通う民間スクールには、色々な壁があり、実際のところ通うことに抵抗を感じる保護者の方々のお話を良く聞きます。そういう意味においても、障害がありながらも、安心して通えるスクールという環境に評価

を頂いているのではないかと考えます。

福永 今でこそ発達障害という言葉が認知されてきましたが、実は発達障害であったことに気づかず成長してきたというケースもありますね。以前テレビ番組で看護師の方が、自分が他の人との違いに気がつき診断すると、発達障害であったことが分かり、それを自身が自覚し受け止め、新たな生活を送っているキュメンタリーが放映されていました。普通の人と比較してミスが多かったり、忘れがちであったり、子育てをしながらも何か他の人と違うことに苦しみ悩んでいたのです。このように職場の中には発達障害に気づかず成長した方が存在している可能性もあると思うのですが、大人になってからその障害を克服することは難しいものなのでしょうか。

住山 発達障害を克服するためには早期療育が不可欠です。大人になってからは本人が発達障害である自分をしっかりと自覚し、意識を持って生活していかなければなかなか克服できないことでしょう。一見では障害を持っているか否かを判断することは難しい障害です。自分で自分のできること、苦手なことを受けし、それらを周りに伝え、理解してもらうことが大切です。それらの情報を聞いた周りや、しっかりと配慮を行い本人に適應した就労環境等を設けるなどの工夫により、マネジメントがしやすくなると考えます。**福永** 確かに周囲が気づいてあげることには大切なことです。本人に自覚症状がないからこそ、家庭においも職場においてももっと皆の行動や言動を理解すること、そしてそうであった場合、受け入れて強みをもっとビジネスにいかせられる職場環境や上下関係の構築をしていくことが、結果的に本人にも、業績にも結びついていくのではないのでしょうか。

住山 発達障害をもつ社員をマネジメントするにあたり、組織内において明確なルールの設定や、しっかりとした枠組みを設定することが一番に求められます。

また、管理職が、発達障害に対する意識や知識の向上に努めるなどの取り組みひとつで本人の能力を最大限に引き出し、円滑な業務フローを描くことが可能になると考えます。

福永 身内の話ですが、甥っ子がある

ゲームで世界大会のチャンピオンとなりユーチューバーとして活躍しています。その子は、人と関わり合いながら社会で働くことが難しいのではないかと、身内で心配していたのですが、ユーチューバーという仕事を通して“自分だけの力ではなく自分をサポートしてくれる人があるからチャンピオンになれ、ユーチューバーとして生きていけているんだ”と、ユーチューブの制作を通して人との関わりや、チームの大切さを自然と学んでいるのだと思いました。

住山 冒頭にも、お話させて頂きましたが、発達障害の特性として興味が強い分野を通じては比較的ストレスなく取り組むことが可能であると考えます。また、障害特性から新しいスキルを習得することに時間を要してしまう傾向があります。根気よく、見守る。ことが大切だと思います。**福永** 地道な努力の積み重ねですね。最後に今後の展開をお聞かせいただけますでしょうか。

住山 まだまだ、社会のニーズに答えられていないという認識です。

関西、関東の Kids Tech をご利用中の保護者の方からは、「教室数を増やしてほしい。」というご要望が多く寄せられています。可能な範囲で教室の店舗展開を進めると同時に、3年計画では Kids Tech で育った子どもたちを弊社において雇用。実際の開発業務の仕事に携わる中で本当の意味での自立に向けたスキームを弊社において確立していきたいと考えております。

そして今秋からは関西、関東において、一般の小中学生に向けたプログラミング教室を展開する計画のもと現在動いております。既存のロボットプログラミングスクールやパソコン教室とは、異なり、2020年より開始される、教育改革の内容に沿った「教科学習+プログラミング」という、これも国内初となる「新しいプログラミングスクール」をFC展開も視野に入れ運営させて頂いた予定です。

福永 社会貢献度がとても高く、すばらしい仕事ですね。発達障害の有無に関わらず、次世代をになう子どもたちが、明るく、楽しく生きていくための泉として、今後の更なる活動を応援いたします。本日はありがとうございました。